

2019年度 附属校ブラッシュアップ研修

附属校教育研究・研修センター

10月24日(木)18:00~20:00、2019年度附属校ブラッシュアップ研修会を、熊本大学 准教授 苦野一徳先生をお迎えし、朱雀キャンパスにて開催した。テーマは、「学校」をつくりなおすであった。参加者は、長岡京4、宇治19、守山11、小学校2、平安女学院3、一貫5、計44人であった。

I 研修会の内容

①進め方

1. グループ対話：自己紹介・本の感想共有
2. 問題提起：苦野先生より
3. グループ対話：疑問・質問作り
4. 徹底対話：質問を共有し、苦野先生に答えてもらう

②研修詳細

1. 宇治の酒井淳平先生より流れの説明

その後18:20までの15分間で自己紹介・本の感想の共有

→4人1組×8Gで実施(できる限り所属をバラバラにしてグループ分け)

2. 苦野先生より問題提起

→前半は苦野先生より自己紹介

哲学入門書を書いた経緯・娘さんとの哲学対話

→問題提起

- ・欲望相関性の原理：人は”欲望”や”関心”に応じて世界を認識している。
- ・実践的な知見は現場の先生、哲学者は原理の部分。その原理の土台の上に実践を積み上げると力強いものになる。
- ・学校の役割はすべての子どもが自由に生きるための力を育むこと。そのためには自由の相互承認が必要。
- ・みんなが対等に自由な存在として認め合える感度を育てる場が学校。
- ・原理は自転車と同じで1度ストンと入るとそれ以前には戻れなくなる。

→テーマ「どんな学校をこれから作っていきたいか、そのために何ができるのか」

3. グループ対話

→30分程度、グループでテーマに対して対話

→対話の途中で酒井先生より「テーマに対する議論の中で出て来た疑問を苦野先生に質問するので、質問項目をできる限りたくさん作る」よう指示

4. 発表

→グループで1つ、ベストな問いを選びホワイトボードに記入

5. 徹底対話

○問い：「学校に評価は必要か？」

- ・義務教育では評定入らないが、評価は必要
- ・あなたにはこんな価値があるということが必要な評価
- ・様々な価値観の人から評価をもらうことに価値がある
- ・評価の軸がたくさんあるということを子どもたちが知ることが重要

○問い「女子校の存在意義とは？」

- ・男子校や共学から来た先生がいうのが、女の子の方が成長が早いので、男子と女子を分けることで、男子が活躍する場ができる（男子校）
- ・同一性の高い集団で同じレベルの人間を育てることを目的にしてきた結果、分断された社会を生きるようになってしまった。
- ・しかし実社会はごちゃ混ぜが当たり前なので、これからの学校は多様性、ごちゃ混ぜが必要になっていく。
- ・とは言っても、ごちゃ混ぜにされると不安があるので、安心・安全を確保した上でごちゃ混ぜにしていることが大切。
- ・女子校という制限がある中で多様性を実現するためには、地域の方との交流の場を設けるなどの工夫ができる。

○問い「他者の自由を認めない形の自由は自由ではないと言うのであれば、自由という発想への制限と見なすようにも考えられるが、果たして自由というものは真に存在しうるのか？その際、倫理という発想が自由を捉えていくヒントになり得ると私たちは考えるが、苫野先生にとっての倫理を伺いたい」

- ・諸規定性の中であってなお、わたしたちは選択・決定可能性を感じることができる。「自由」の本質はここに存在する。
- ・絶対的な自由、何もかもやりたいようにできる自由。でもこれは存在しない。
- ・我々は欲望を持った存在であり、欲望を持っているがゆえに我々は否定されていることになる。欲望は絶えず我々を不自由にたらしめる。
- ・動物は欲望をあまり自覚していないので、本能のままに生きている。人間は欲望を自覚しているので、不自由と感じることができる。だから人間は自由を求める。
- ・自由はありうるかというのは大事なテーマの1つ。一切のシステムによって自由は決められている、すべて脳が決めているから自由がない、などといった議論があるが、これらの問いには答えがないので、カントはその問いを捨ててどのような時に自由を感じられるのかという問いに変えていけばいいと言った。そうすることで、建設的に自由について考えることができる。
- ・近代になって道徳から倫理に変わった。時代によって道徳は違う。キリスト教の道徳とイスラム教の道徳は違う。どんな道徳を持っていても、他者の自由を保証していくことが倫理

○問い「どのような教育がいじめをなくすと思われませんか？いじめをなくすのに必要な条件は？」

- ・いじめはなくせるものである。
- ・いじめが起こる原因は、ずっと同じ場所で逃げ場がない環境にいるとき
- ・人間関係の流動性の仕掛けをたくさん作ればいじめはなくなる
- ・いじめをする側は自己不全感がある。相手に腹が立つのは、自分にも腹を立てているから。自己不全感がなくなるような信頼と承認の場を作ることが必要。
- ・いじめは小さい集団での正義から起こるので、その場を開いていくこと、なるべく同一性ではなく多様性の環境にしていくことが大切。

○問い「哲学や原理の話があつて、人間の本質のお話をいただいた後に、どんな学校を作るのかという欲であり、現実的な問いを言われたねらいは？」

- ・哲学は使えなければ意味がない。哲学を使いこなせるようになったら現実的な問いに力強く答えられる。
- ・現場の先生たちにそのバランスについて考えて欲しかったから。

○問い「自由の相互承認、及びその感受性を育てていくために、段階的に教えたりシステムを作ったりしていく必要があるのか、どこから始めたらいのか」

○問い「自由が奪われるような管理された中で、その壁を壊そうと考える子と思考停止の子が生まれる違いは？」

- ・自分の自由があまり認められていない環境だと、他者の自由も認められないから、他者の自由を制限したくなるので、自由の相互承認を教えるためにはある程度の自由な状態が必要。
- ・自由になるための教育が必要であって、自由な教育がいいわけではない。
- ・子どもたちは幼稚園や保育園のなかで自由の相互承認を自ら育てていく。そこに大人が入って無理やり解決していくとその力が奪われてしまう。自分たちで人間関係を作っていく機会を保障することも必要。
- ・少しだけ自由がない環境の方が自由を求めることもあるので、バランスも大切。昔は管理がわかりやすかったので反発もしやすかったが、今はルールが細かいので、逆らうのも面倒臭くなり、子どもたちの精神性も飼いならされていった（従う方が楽）→思考停止
- ・人は、一度自由を手に入れたらそれ以前の世界に戻ることはできなくなってしまう。
- ・また、トンネルを抜けてしまった我々には自由なことへの苦しみがやってくる。自由の中にいると自由の価値が理解できなくなってしまうし、何をやっていいかわからなくなる。
- ・憧れの存在は壁になるので、不自由から逃れるための一歩となる。

○問い「日本型教育が育ててきた良い意味での長所が探求型教育を推進する上で失われる恐れはないか？日本の教育の文化的背景を探求型教育は踏まえているものなのか？」

- ・日本の教育の長とは？（苦野先生から質問）
海外の学校で働いていると日本の教育に対する評価が高い。海外の子供は自由だが、相互承認はできていないことも多い。それに対して、日本は目的意識を持って自主的に行動できる。グループで何かを成し遂げることにに対して積極的なども言える。
- ・違う国の教育制度をそのまま持ち込めるとは思っていない。
- ・長所は短所の裏返しなので、非常に難しい。何を長所というかは難しいが、日本の文化を意識した上で教育を進めていくことが必要。
- ・子どもたちには知りたい欲求や自己表現欲求が必ずあるので、探究はむしろ子どものそういった欲求を満たすことができるものではないか。
- ・直系家族の日本では誰か偉い人がいてその人に従うのが当たり前で、人間は不平等なものであるという精神が刻み込まれている。家族システムが変わって来ているとはいえこのイデオロギーはなかなか変わらない。それだけ社会に浸透しきっている。
- ・逆に、フランスなどは全く違うイデオロギー。
- ・日本はこの直系システムのおかげで成長してきた。近代化する時に上からやれと言われるとやる精神性を持っていた日本だったが、これからはそうではない時代になって来ている。
- ・何百年続いた精神性を変えないと日本は不幸な国になってしまうかもしれない。日本の文化を意識しつつも、精神性を変えていく必要がある。

○問い「ライバルはN校、理想はミネルバ。オンラインキャンパスとオンキャンパスのベストミックスとは？」

- ・オンラインなので知識は伝えられるが集まることの意味、本質は？そこを考え直す時が来ている。だからこそ、探究が大切だと考える。

6. 質疑応答

○問い「探究を中核にしていく中で、学校の中でやる必要のある教科は何か」

- ・教科は人類の叡智。
- ・人によって関心の価値は違うので一概にはいえないが、各教科は子どもたちの周りを衛星のようにまわっているもの。
- ・今までは先生や教科が中心だったが、これからは子供の探究が中心でその周りにある教科や教師が利用されていくという考えなので、どの教科にも価値はある。状況に応じて取捨選択していくしかない。

○問い「学習指導要領という強力な諸規定をどうすればいいか」

- ・指導要領を知り尽くせば自由にさせてくれるものであるということに気づく。
- ・例：道徳だと 22 の内容項目の価値を教えるのではなく、取り扱うだけで良いなど

○問い「デューイの思想出て来て教育がおかしくなった説もあるが、苫野先生はどう考えるか」

- ・デューイの思想は非常に中途半端なところがある。
- ・何もスイッチが入らないのに様々な経験を与えても意味がない
- ・どういう時に学びが始まるかというワクワクした時→原理的な話
- ・デューイから方法論だけを受け取ったためにおかしくなった
- ・方法論だけでなく原理論的な意味で受け取る必要がある

○問い「答えを知りたがる生徒が多い。どうやってマインドセットするのか。」

- ・問いが自分のものになっていない
- ・自分の問いをたくさん探究する経験をするのが大切
- ・自分の問いを探究する経験があるかないかで学びに向かう姿勢を変える。

《記録 立命館宇治中高 高野阿草》

《編集 附属校教育研究・研修センター 今宿純男》